

発足四十五周年記念

白謡会・冬の会番組

日時・平成二十五年十二月十五日（日）午前九時二十分始
場所・横浜能楽堂舞台 Ⅷ（〇四五・二六三・三〇五〇）
主催・白謡会（中白根本部、神奈川支部、沢渡支部、
六日町支部、長崎支部、熊本支部）
協賛・横浜市医師会能楽部

祝賀素謡

神

歌

（喜寿記念）

小林 宏三

千歳 三武 孝

地頭 平戸仁英

竹生島

鈴木 紀子

佐川 武子 山口 健次

地頭 平戸仁英

梅

素謡

山森 和夫 渡邊 長壽

地頭 三武 孝

仕舞

雲林院クセ 鈴木 紀子
兼 平 内田 節子
野 宮 北島 大靖
錦 木クセ 松嶋 總子
善知鳥 岩淵貴美子

連吟

三井寺

シテ 二宮 恵磨

地謡

菊田 博、森川洋子、茨木國夫、
川口 茂、石井静江、中尾 操、
加藤千恵子

鉢木

シテ 長谷川次八

ワキ 森

庸一

ツレ 鈴木

幸子

地謡

山口健次、山形隆康、北島大靖、
一坂洋三、鈴木紀子、小島洋子、
二見昌明

素謡

トモ 小原九州男

ツレ 西澤 滋幸

越後貫 隆

青山 圭佑

地頭 関口 潔

景清

定家

棟居 禮子

松本 幸子

地頭 福井トシミ

連吟

東北

シテ 齋藤 三紀

ワキ 鴨川 昭一

地謡

石井佑卯子、金山武志、初田敏美、
佐藤文孝、安永 健、山本真理恵

蝉丸

シテ 小笠原久珠子

ツレ 高井 倫子

地謡

松島總子、内田節子、岩渕貴美子、
堤美代子、永野由紀子、竹川綾子

仕舞

老 松

茨木 國夫

清 経キリ

川口 茂

松 風

金山 武志

玉 鬘

石井 静江

融 一坂 洋三

素謡

鸚鵡小町

(米寿記念)

國廣

静

松澤

英雄

地頭

舍川重隆

仕舞

雨 月前 森川 洋子
田 村キリ 永野由紀子
三 輪クセ 初田 敏美
芭 蕉キリ 西尾まつ枝
阿 漕 齊藤千賀子

素謡

隅田川

子方 中山 眞秀
菅原 秀子 関口 潔 地頭 平戸仁英
ワキツレ 小田切 威

仕舞

菊慈童 橋本 鏡子
弱法師 イロエ入 堤 美代子 笛 中山 眞秀
通小町 龍田 啓子
山 姥クセ 尾崎 純子
船弁慶キリ 中尾 操

舞囃子

唐船

三野 仁子 大鼓 三木亜威子 太鼓 小島 倅也
小鼓 中島 幹恵 笛 大久保直樹
地謡 松澤英雄、三武 孝、青山圭佑、渡邊長壽、平戸仁英

素謡

恋重荷

ツレ 福井トシミ
小島 洋子 舎川 重隆 地頭 青山圭佑

舞囃子

葛城

神崎 克子 大鼓 西尾まつ枝 太鼓 小島 倅也
小鼓 相良 邦子 笛 大久保直樹
地謡 三武 孝、松澤英雄、青山圭佑、渡邊長壽、平戸仁英

連吟

花 筐

シテ 白井さつき ワキ 関口セツ子 ツレ 近藤たね子

地謡 橋本鏡子、西尾まつ枝、斉藤千賀子、
糸井多倍子、尾崎純子、三木亜威子

独鼓

屋 島 龍田 啓子

仕舞

小袖曾我 田中 幹久 宮下隼太郎
二人静 石井佑卯子 加藤千恵子

舞 離子

須磨源氏

薬師堂隆子

大鼓 三木亜威子 太鼓 小島 倅也
小鼓 相良 邦子 笛 大久保直樹

地謡 青山圭佑、松澤英雄、渡邊長壽、北島大靖、平戸仁英

仕舞

鶴 亀 宮下 嗣弘
敦 盛 平戸孝史朗

高 砂 佐藤 文孝

羽 衣キリ 山本真理恵

嵐 山 安永 健

松 虫クセ (独舞) 三武 孝

舎 利 平戸 仁英 (喜寿記念) 糸井多倍子

附祝言

(終演予定 午後六時)

注① 素謡の省略個所などは左記の通りとします。

「神 歌」 〓 鏡の間でお祓いを致します。男性は袴着用。女性は紋付きで。

「竹生島」 〓 神歌と同じメンバーが参加。省略個所は設けません。地は速謡で。

「梅」 〓 クセを省き、地の一セイに跳ぶ。

「景 清」 〓 ①三丁表の上歌より五丁表の一行まで省く。 ②十二丁表の上歌を省く。

「定 家」 〓 クリ、サシ、クセを省く。

「鸚鵡小町」 〓 ①二丁表シテの上歌を省く。 ②クセ省く。

「隅田川」 〓 ①四丁表の上歌を省く。 ②十三丁表の上歌を省く。

「恋重荷」 〓 省略個所なし。

注② 連吟の範囲は左記の通りとします。

「三井寺」 〓 八丁表のシテ「かほどの聖人……クセ留まで

「鉢 木」 〓 九丁表のワキ「げにげに鉢木の……クセ留まで

「東 北」 〓 三丁表のシテ「かほどに……中入まで

「蟬 丸」 〓 十一表のシテ「遠くは浄蔵……最後まで

「花 徨」 〓 八丁表のワキ「不思議やな……狂留（十一丁表）まで

注③ 昼食は、能楽堂二階の食堂に用意致します。また、飲料用にペットボトルをご持参下さい。

注③ 会の終了後、桜木町駅前ワシントンホテル内「東天紅」で懇親会を催します。

(11月12日版)

白謡会について

白謡会は昭和39年に横浜で発足した観世流能楽の同好会(アマチュア集団)で、会員数は約60名です。

この会の名前は白寿(九十九歳)まで、謡や舞を楽しみましょうと言うところから来ており、年二回の横浜能楽堂での公演のほか、年に数回、小規模の会を持つたり、観光旅行かねて地方の舞台巡りをしたりしています。

今後の横浜能楽堂(本舞台)での公演予定 〓平成二十六年五月十八日(春の会)、十一月三十日(秋の会)

以上